

8-1 社会との交流

8-1-1 一般公開

研究活動や内容について、広く一般の方々に理解を深めていただくため研究所内を公開し、説明を行っている。現在では岡崎市にある3つの研究所が輪番に公開を実施しているので、3年に1回の公開となっている。公開日には実験室の公開と講演会が行われ、多くの見学者が分子研を訪れる。

回 数	実施月日	入場者数
第 11 回	2006.10.21	2058 人
第 12 回	2009.10.17	1346 人
第 13 回	2012.10.20	1126 人
第 14 回	2015.10.17	2600 人
第 15 回	2018.10.20	3878 人
第 16 回	2021.10.23 (オンライン開催)	YouTube 再生回数；2618 回 ニコニコ動画来場者数；26,964 人 (10/23 一般公開終了時点)
第 17 回	2024.10.19 (事前申込制)	1746 人

8-1-2 分子科学フォーラム

当フォーラムは「分子科学の内容を他の分野の方々や一般市民にも知らせ、また、幅広い科学の話を分子研の研究者が聞き自身の研究の展開に資するように」との趣旨のもとに、1996年より実施されている。豊田理化学研究所と共催となっており、年度毎に年間計画を豊田理化学研究所の理事会に提出している。2008年度よりは、一般市民の方々に科学の面白さ・楽しさを伝える「市民一般公開講座」として新たに位置づけられ、2009年度には、一元的で効率的な活動の展開を目指して、広報室を中心とした実施体制の整備を進めた。この際、講演回数をこれまでの年6回から4回に変更し、密度の高い講座を開講することで、より魅力的な『分子科学フォーラム』の実現を図った。COVID-19感染拡大後はオンライン開催に切り替えたが、開催時間、広報活動をターゲットに合わせ変更した結果、全国の社会人、大学生、高校生に参加いただけるようになり、参加人数もリアル開催よりオンライン開催の方が多結果となった。

本年度は新たな試みとして、従来の配信プラットフォームに加え、「ニコニコサイエンス」での同時配信を導入した。配信チャンネルを拡充したことで、視聴者層のさらなる拡大に成功し、当初の想定を大幅に上回る反響を得ることができた。これら一連の成果を踏まえ、来年度以降も豊田理化学研究所の協力を得て、引き続き本体制での配信を継続することとした。

本年度の実施状況は以下の通り。

回	開催日	テーマ	講演者	参加人数
143	2025. 7.10	観ることで広がる触媒の世界	唯 美津木 (名古屋大学教授(元分子研 准教授))	207 名 (アーカイブ配信 累計 2197 回； 3204 回再生 (2026.3.31 時点))

144	2025.11.13	「ねじれた光」で見る左と右，鏡写しの世界	岡本 裕巳 (分子科学研究所教授)	269 名 (アーカイブ配信 累計 1898 回； 4003 回再生 (2026.3.31 時点))
145	2026. 1.29	分子を使った光電変換の科学 ～革新的発光・発電素子の実現に向けて～	伊澤 誠一郎 (東京科学大学准教授 (元分子研助教))	167 名 (アーカイブ配信 累計 1385 回； 4625 回再生 (2026.3.31 時点))
146*	2026. 3.14	僕たちは“星屑”から生まれた？	渡部 潤一 (国立天文台上席教授)	196 名 (会場) 110 名 (アーカイブ配信 累計 1511 回； 22775 回再生 (2026.3.31 時点))
		最古の体内時計が日の出を知らせた 約 22 億年前のある日	秋山 修志 (分子科学研究所教授)	

アーカイブ配信累計は分子研 YouTube；ニコニコサイエンス

* 自然科学研究機構シンポジウムと同時開催

8-1-3 市民向けシンポジウム

(1) 自然科学研究機構シンポジウム

2006 年度より年 2 回のペースで開催されている自然科学研究機構シンポジウムは、本年度で第 41 回を数えた。2025 年度の分子科学研究所の関与は、分子科学研究所の創立 50 周年を記念し、特別シンポジウム「自然科学研究機構シンポジウム×分子科学フォーラム 元素から紐解く宇宙と生命のものがたり」として企画し、2026 年 3 月 14 日（土）に岡崎コンファレンスセンターにて開催した。

本シンポジウムは、宇宙、生命、そしてそれらを構成する「元素」をテーマに掲げ、学術的な専門性と一般市民の関心を高次元で融合させることを目的とした。午前中に次世代育成事業として「小中高生を対象とした元素検定」を併催した結果、午後のシンポジウムには多くの親子連れが継続して参加する形となった。この戦略的なプログラム構成により、専門性の高い学術講演でありながら、会場が満席となる極めて高い動員実績を記録した。講演セッションでは、

国立天文台・渡部潤一上席教授および分子科学研究所・秋山修志教授が登壇し、宇宙の進化から生命の体内時計に至るまで、分子科学の視点から紐解く壮大な知見が共有された。また、長谷川美貴教授と中村敏和チームリーダーによる「挑戦！ 元素クイズ」では、双方向型のコミュニケーションを通じて参加者の理解を深めるなど、科学コミュニケーションにおける有効な手法が実践された。

本シンポジウムは、50 周年という節目にふさわしい成果を収め、次世代を担う層に対して科学への興味を喚起する重要な機会となった。これは、研究機関が果たすべき社会貢献および科学教育の普及という側面において、極めて意義深いものである。当日の様子は、現在分子研 YouTube およびニコニコサイエンスにてアーカイブ配信を実施しており、時間・場所の制約を超えた広範なアウトリーチ活動を継続している。



第 41 回自然科学研究機構シンポジウム「元素から紐解く宇宙と生命のものがたり」プログラム

12:30	開場
13:30	オープニング ようこそ自然科学研究機構シンポジウムへ！ 渡辺 芳人（分子科学研究所長）
13:35	挑戦！ 元素クイズ 実は身近な元素。元素の知識をクイズ形式で楽しくゲット！ 出題 元素同好会，解説 長谷川美貴（青山学院大学）中村敏和（分子研）
14:05	講演 渡部 潤一（自然科学研究機構 国立天文台 上席教授） 「僕たちは“星屑”から生まれた？」
14:45	休憩
15:05	最先端の研究が集結！ 自然科学研究機構とは？
15:10	講演 秋山 修志（分子科学研究所 教授） 「最古の体内時計が日の出を知らせた約 22 億年前のある日」
15:50	クロージング 閉会のあいさつ 川合 眞紀（自然科学研究機構長）
16:00	終了

今年度の実施状況は以下の通り。

回	開催日	テーマ	開催方法
40	2025. 9.13	命のかけらを探そう —地球の外に生命が存在する可能性はあるのか？—	日本科学未来館 (ハイブリッド開催)
41	2026. 3.14	元素から紐解く宇宙と生命のものがたり	岡崎コンファレンスセンター (ハイブリッド開催)

(2) 大学共同利用機関シンポジウム

本シンポジウムは、自然科学研究機構を含む4つの大学共同利用機関法人を構成する19の研究機関と宇宙科学研究所が、総合研究大学院大学と合同で開催している。各研究機関が「知の拠点群」として果たしている役割と、研究の推進を通じて切り拓かれた科学の広大なフロンティアの現状について、広く一般市民の方に紹介することを目指している。2025年度（第15回）は、2025年10月4日（土）に国際日本文化研究センター（京都市）において、「大学共同利用機関そのもの」に焦点を当てた対面とオンラインのハイブリッド形式で開催された。

今回は、研究予算や社会ニーズの変化に伴い、機関同士でも相互に見えにくくなっている各機関の役割や課題を共有し、今後のあり方を議論することを主眼とした。セッション1「大学共同利用機関の役割と機能」では、生理学研究所の定藤規弘特任教授が、分子科学研究所・生命創成探究センターと連携した「スピン生命科学コア」の取り組みを例に、組織横断的な新領域研究の展開を紹介した。また、セッション3「社会とともに歩む大学共同利用機関」においては、分子科学研究所の中村敏和特任部長が「自然科学研究系の大学共同利用機関が為すべきこと」と題し、学術深化と設備高度化が進む現状において、融合学際研究の環境整備や、高額化した研究資源の効率的活用、そして研究マネジメントを担う若手人材の重要性を社会に周知する必要性について提言を行い、大学共同利用機関の将来像について議論を深めた。

実施状況は以下の通り。(中期計画第4期)

回	開催日	テーマ	会場／開催方法
13	2022.10.24	科学の時代。見えてきた未来	名古屋市科学館 (ハイブリッド開催)
14	2023.10.22	現代の社会問題に挑む日本の科学	日本科学未来館 (ハイブリッド開催)
15	2024.11. 9	現代の社会問題に挑む日本の科学	JAXA 相模原キャンパス (ハイブリッド開催)
16	2025.10. 4	大学共同利用機関ってなに？	国際日本文化研究センター (ハイブリッド開催)

8-1-4 見学者受け入れ

自然科学研究機構岡崎3機関の見学者の受け入れは、岡崎統合事務センター総務課企画評価係が窓口になって行われており、その中で分子科学研究所の見学分については、研究力強化戦略室が中心となってその対応にあたっている。2010年5月に展示室を開設し、個人の見学受け入れを開始した。年間およそ300名が来訪している。2022年度は感染状況が落ち着いていることを条件として受け入れた。

見学申込み

(中期計画第4期)

年度	団体申込（施設見学＋展示室見学）			個人申込 (展示室)	見学者総数
	団体数	見学者数	実施機関名	見学者数	
2022	5	134	静岡大学農学部 岡崎市現職研修委員会理科部 ほか	0	134
2023	10	235	愛知県立高蔵寺高等学校 名古屋市役所経済局 ほか	2	237
2024	8	260	静岡県立浜松南高等学校 愛知県高校理科教員研修 ほか	0	260
2025	11	248	関西学院千里国際高等部、静岡県立浜松南高等学校、 山梨県立日川高等学校、三重県立津高等学校・伊勢高 等学校、岡崎ざざ、蒲郡市議会議員、愛知県弁護士会、 愛知県立春日井高等学校、愛知県立岡崎北高等学校、 岡崎市商工会議所青年部、中部環境計量士会	0	248

8-1-5 その他

(1) 岡崎商工会議所（岡崎ものづくり推進協議会）との連携

岡崎商工会議所は、産学官連携活動を通じて地元製造業の活性化と競争力向上を目的に「岡崎ものづくり推進協議会」を設立し、多くの事業を行っている。この協議会と自然科学研究機構岡崎3研究所との連携事業の一環で、協議会の会員である市内の中小企業との交流会を2007年度に開催し、この交流会によって出来あがった協力体制は現在も継続している。また岡崎商工会議所主催で隔年開催される「岡崎ものづくりフェア」へ大学・研究機関として展示ブースを設けて参加している。

(2) 岡崎市観光協会との連携

2018 年より岡崎市観光協会と連携を開始し、各種市民向けのイベント等で相互に協力することで、市民への広報活動がより活発に行えるようになっている。

実施日	内容
2018.10.20	一般公開 キッチンカーのご提供
2019. 6.13	岡さんぽ（岡崎市観光協会主催のイベント）への協力
2019.10.11	岡さんぽ（岡崎市観光協会主催のイベント）への協力
2024.10.19	一般公開 キッチンカーのご提供

(3) 大阪・関西万博での特別対談イベントの実施

一般向けのイベントとして、量子力学誕生 100 周年を記念し、2025 年 8 月 15 日、大阪・関西万博にてスペシャルトーク『攻殻機動隊×量子コンピュータ』を開催した。本イベントでは、大森賢治教授による特別講義に加え、映画監督の押井守氏を迎えたスペシャル対談を執り行った。SF 作品が描く未来像と最先端科学の融合をテーマに、新たな発想を促す多角的な議論が展開された。会場（EXPO メッセ）は立ち見が続くほどの大盛況となった。また、YouTube によるライブ配信も並行して実施し、幅広い層へ量子力学への関心を喚起する機会となった。なお、本内容は分子研 YouTube でアーカイブ配信を行っており、2026.3 月末時点で 1.3 万回を超えて再生されている。